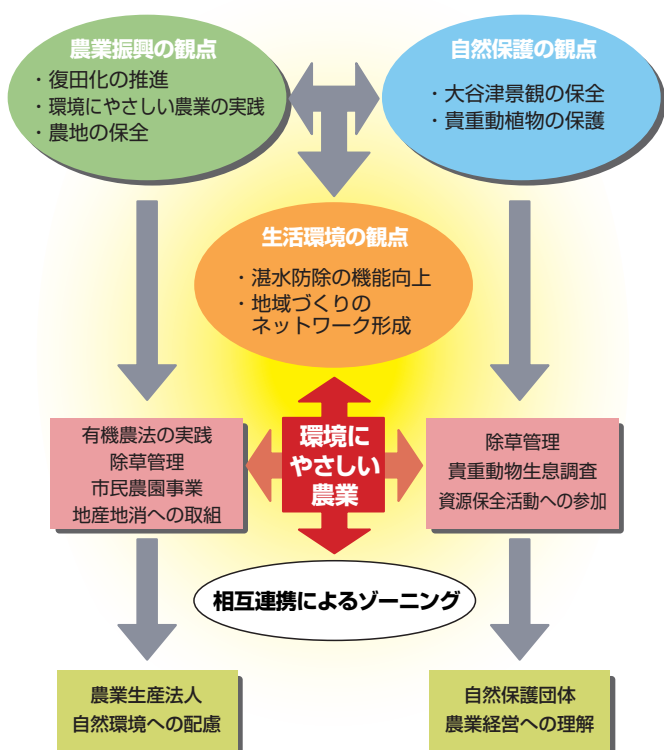


里山の自然を楽しみながら米づくりを体験

市では、農業生産法人と協力して、大規模な谷津田や里山に住む生き物などを観察しながら、自分の手でお米の苗を植え、草を取り、そして自然観察会も行いながら刈り取りの秋を迎える、といった「水田型市民農園」の整備を今年度から進めています。すでに19年度は近くの福田第一小学校の児童たちも手伝って、立派に収穫をあげることができました。20年度は参加者を増やし、さらに21年度の本格稼働に向けて整備を進めていきます。

（江川地区における農業と自然の共生地域づくり） （江川地区の役割イメージ）



「こんなにたくさん取れたよ」

■21年度から本格稼働

市では、多くの市民に武蔵野の原風景を彷彿させることの出来る数少ない大規模な谷津田や里山の風景を楽しんでいただきながら、自然保護にも協力していただくため、あわせて安定した継続性を維持するために、市民の皆さんのみならず、つくばエクスプレスの「柏たなか駅」から至近距離という特徴を生かして、多くの都市住民の方々のご協力をいただくため、市民水田の利用者を募集する計画です。

平成20年度からは試験的に1・1ヘクタール（約70区画）の市民農園

を有料で使っていただき、21年度には1・7ヘクタール（約113区画）にします。

1区画は、約1・5～1・6アールで、利用料金は2万円前後となる予定です。また、1区画あたりのオーナー数は1組で、家族、友人、団体単位でも申し込みできます。

20年4月から9月（田植えから稲刈り）まで、試行的ですが市内外の団体を中心に利用者を募集し、田植え、草刈、自然観察会、稲刈りを実施していただきます。

市民農園では、農業生産法人の指導やアドバイス、さらに支援を受けることができますので、初めて稲作を経験される方も、安心して栽培することができそうです。

また、1区画につき、1俵（玄米60キログラムか精米54キログラム）を保証します。復田がおおむね完了する平成21年までに国の交付金を活用しつつ、更衣室、シャワー室、トイレなどを備えた休憩施設や作業機械、駐車場を整備する予定です。

なお、21年度の市民農園の募集は、20年秋ごろから市報やホームページなどでお知らせする予定です。